

榎えのき

令和7年12月5日発行 校長 久保田 勲

「ちょっといい話」から広がる笑顔の輪

今号では、全校集会で子どもたちにお話しした「ちょっといい話」を保護者の皆様にもお届けします。

今回は、校長として日々の中で心温まる出来事を二つ紹介したいと思います。

どちらも、みなさんの小さな行動や言葉の中に、成長や優しさを感じた「ちょっといい話」です。

ある朝のことです。登校してくるみなさんの様子を見てみると、少し気になることがありました。季節の変わり目で涼しくなってきたせいか、あるいは髪型が気になるのか——帽子をかぶらずに登校してくる子が何人かいたのです。その中には、私の姿を見かけると、少し遠回りして登校してくる子もいました。

「どうしてだろう」と思いながらも、心のどこかで少し寂しさを感じていました。

ところがある日、その子がきちんと帽子をかぶって登校してきたのです。しかも、すれ違いざまにニコッと笑顔を見せてくれました。担任の先生が意味を話してくれたのかな。その表情が本当にすてきで、「ああ、ちゃんと気持ちが伝わったんだな」と胸が温かくなりました。帽子をかぶるという小さな行動の中にも、思いやりや前向きな気持ちが表れることを改めて感じた出来事でした。

もう一つ、心に残った話があります。

教室にはなかなかいけないけれど、校長室で勉強して過ごしている子がいます。本当は友達と関わりたいと思いながらも、自分のペースで頑張っています。そんなある日、5年生の男の子が校長室に遊びに来るようになりました。二人で少し話をしたり、ボードゲームのオセロをしたりして過ごす時間が増えていきました。

ある日、その男の子がゲームの最中に言いました。「俺が勝ったら、明日も学校に来いよ。」

その一言に、私は思わずドキッと思いました。でもすぐに、それが命令ではなく、友達としての温かい気持ちから出た言葉だとわかりました。心の底から「また来てほしい」と思っている——そんな優しい願いが伝わってきたのです。

言われた子も少し照れくさそうに笑っていて、その表情に「自分を待っていている人がいる」という安心感がにじんでいました。誰にとっても、「自分には友達がいる」と思えることは、何よりの励ましになりますね。

これからも、みなさんの笑顔をみつけて、話ができたらうれしいと思っています。

こうした小さな出来事の中にこそ、子どもたちの成長や人とのつながりの大切さが詰まっています。「わかっているけれど、なかなか行動にうつせないこと」が多い中で、一步を踏み出した子どもの表情には、晴れやかさや自信があふれています。

これからも、子どもたちが見せてくれる“**いい一歩**”を温かく見守りながら、その成長を保護者の皆様と共に喜び合っていけたらと思います。

季節の変わり目を迎えますが、どうぞご家庭でも子どもたちの小さな頑張りをたくさん見つけて、言葉で励ましてあげてください。

学校 HP の紹介 日々の教育活動や学校情報を発信していきます。学校を知る手段としチェックしてください。



学校 HP